資料1 使用状況想定シート

		承認	確認	作成
作成部署	部			
作成日	年 月 日			
項目		機械の使用状況など		
機械の名称				
機械を使用する目的、用途				
予見される誤使用、誤作動、機能不良				
製品 の 主 な 仕 様	製品型式			
	設計寿命			
	原動機出力			
	回転数			
	製品質量			
	製品使用スペース（幅×奥行×高さ）			
	環境条件（屋内外、温度、湿度）			
	使用エネルギー源			
	想定稼働時間（連続、都度、H/日）			
	加工物材料（有害物質の有無）			
	騒音、振動の発生状況（ s^{-1} ）			
	機械の移動の有無（据付、移動）			
その他				
主要使用国（国内、輸出）				
危険 の 対 象 者	運転員			
	保全、調整員			
	周囲作業員			
	サービス員			
	管理、事務員			
	第三者			
機械のライフサイクル （危険が予想される機械のライフサイクル）				

資料2 作業フローシート

1. 機械名： _____ 型式： _____
2. リスクアセスメント実施区分 _____ 設計企画段階 _____ 初期設計段階 _____ 最終設計段階 _____ 製造出荷段階 _____
3. リスクアセスメント実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 場所： _____
4. リスクアセスメント実施責任者： _____ (役職) _____
5. リスクアセスメント参加者 _____
6. 作業の区分 _____ : 機械の _____ 輸送 _____ 設置 _____ 試運転 _____
 _____ 使用時の _____ 調整 _____ 運転 _____ 清掃 _____ 保全 _____ 不具合の発見・措置 _____

7. 作業の詳細フロー

作業番号	作業の具体的内容	対象者（危険域に存在する人）

8. 予見される誤使用、誤作動

No.	予見させる誤使用、誤作動の具体的内容	対象者（危険域に存在する人）

6項、作業の区分の細目毎に7項、8項のリストを作成し、本シートに続けて添付する。

資料3 危険源、危険状態及び危険事象 特定チェックシート

1. 機械的危険源	危険源 有無	作業 番号	いつ、どんな時 作業内容	誰が 危険対象者	危険状態
(1) 機械部品又は加工物が発生する例えば次の事項から起こるもの a) 形状 b) 相対位置 c) 質量及び安定性(重力の影響を受けて動く構成要素の位置エネルギー) d) 質量及び速度(制御又は無制御運動時の構成要素[の運動エネルギー]) e) 不適切な機械強度 (2) 例えば次の項目から起こる機械内部の蓄積エネルギー f) 弾力性構成要素[スプリング等] g) 加圧下の液体及び気体 h) 真空効果[の影響]					
1.1 押しつぶしの危険源					
1.2 せん断の危険源					
1.3 切傷又は切断の危険源					
1.4 巻き込みの危険源					
1.5 引き込み又は捕捉の危険源					
1.6 衝撃の危険源					
1.7 突き刺し又は突き通しの危険源					
1.8 こすれ又は擦りむきの危険源					
1.9 高圧流体の注入又は噴出の危険源					

2. 電氣的危険源	危険源 有無	作業 番号	いつ、どんな時 作業内容	誰が 危険対象者	危険状態
2.1 充電部に人が接触(直接接触)					
2.2 不具合状態で充電部に人が接触(間接接触)					
2.3 高電圧下の充電部に接近					
2.4 静電気現象					
2.5 熱放熱、又は短絡若しくは過負荷などから起こる溶融物の放出や化学効果[影響]などその他の現象					
3. 次の結果を招く熱的危険源					
3.1 極度の高温又は低温の物質若しくは(又は)材料に人が接触し得ることによって火災又は爆発、及び熱源からの放出による火傷、熱傷及びその他の傷害					
3.2 熱間又は冷間作業環境を原因とする健康傷害					
4. 次の結果を招く騒音から起こる危険源					
4.1 聴力喪失(聞こえない)、その他の生理的不調(平衡感覚の喪失、意識の喪失など)					
4.2 口頭伝達、音響信号、その他の傷害					
5. 振動から起こる危険源					
5.1 各種の神経及び血管障害を起こす手持ち機械の使用					
5.2 特に劣悪な姿勢と組み合わせられたときの全身振動					
5.3 機械が加震源の床振動によるオペレータ、住人への不快感					

6.放射から生じる危険源		危険源 有無	作業 番号	いつ、どんな時 作業内容	誰が 危険対象者	危険状態
6.1	低周波、無線周波放射、マイクロ波					
6.2	赤外線、可視光線及び紫外線放射					
6.3	X線及びγ線					
6.4	α線、β線、電子又はイオンビーム、中性子					
6.5	レーザー					
7.機械類によって処理又は使用される材料及び物質(並びにその構成要素)から起こる危険源						
7.1	有害な気体、ミスト、煙霧及び粉塵と接触又はそれらの吸入による危険源					
7.2	火災又は爆発の危険源					
7.3	生物(例えば、かび)又は微生物(ビールス又は細菌)危険源					
8.例えば次の項目から起こる危険源のように、機械類の設計時に人間工学原則の無視から起こる危険源						
8.1	不自然な姿勢又は過剰努力					
8.2	手 - 腕、又は足 - 脚についての不適切な解剖学的考察					
8.3	保護具使用の無視					
8.4	不適切な局部照明					
8.5	精神的過負荷及び過小負荷、ストレス					
8.6	ヒューマンエラー、人間挙動					
8.7	手動制御器の不適切な設計、配置又は固定					
8.8	視覚表示装置の不適切な設計又は配置					